

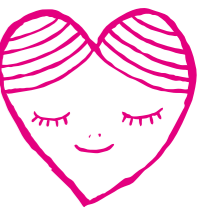
Because I am a Girl



女の子にはチカラがある

～未来を創るジェンダー教育～

Because I am a Girl



女の子にはチカラがある

～未来を創るジェンダー教育～

プラン・インターナショナルとは…

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGOです。創立は1937年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発を進めてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

Because I am a Girlとは…

国際NGOプラン・インターナショナルが展開するグローバルキャンペーン。「女の子だから」というそれだけの理由で、様々な困難に直面する女の子たちが世界中にいるという現実を伝え、解決に向けた行動を喚起するとともに、こうした問題を解決するキーパーソンも女の子自身であるという女の子のパワーを訴えています。

【お問い合わせ】

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 開発教育担当

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル 11F

TEL: 03-5481-0030 FAX: 03-5481-6200

E-Mail: education@plan-international.jp www.plan-international.jp

本教材作成にあたり、特定非営利活動法人開発教育協会にご協力いただきました。

世界の女の子に、生きていく力を。



教材

世界の女の子に、生きていく力を。





はじめに

女の子への「投資」が貧困からの脱却の鍵になること一家族の状況を改善させ、地域や国を活性化させること一そして次世代にまで好影響を及ぼすことを、プランは活動から学んできました。しかし、今も多くの女の子たちが、生まれたその日から様々な不公正や不平等に見舞われています。

女の子だから、小・中学校を修了できない。
 女の子だから、家事労働を担うのはあたりまえ。
 女の子だから、10代で結婚させられる。
 女の子だから、家庭や地域社会で差別される。

しかし、皆で力を合わせれば、これらを変えることができます。女の子たちが学ぶ機会を手に入れ、自分の意志で人生を選べるようになることができます。

女の子を取り巻く課題やその原因について学び、何ができるかを考えること、それは当事者である女の子が声をあげるための大きな後押しになります。世界の女の子が生きていく力をつけること。それは女の子にとってだけでなく、男の子や男性も含めて、すべての人々にとって平等な世界をつくることです。

開発現場から生まれた4つのアクティビティを、学習者にあわせた形に自由にアレンジしてご活用頂ければと思います。ワークシートはウェブサイト (www.plan-international.jp/ 教育関係者の方へ) からダウンロードできます。ぜひ多くの方にこの教材を使って様々な発見の場を作って頂ければと願っています。

タイトル	対象	テーマ	ページ
アクティビティ① 「男らしさって」 「女らしさって」	小学校低学年～大人	ジェンダーの固定観念	3
アクティビティ② シータちゃんの日 物語①	小学校中学年～大人	ジェンダーの不平等、 教育、水、家事労働、 早すぎる結婚	4-9
物語②		ウルミラさんの物語	10
アクティビティ③ 成長の根っこ	中学生～大人	ジェンダーの不平等、 教育	11-13
物語③		ファトマタさんの物語	14
アクティビティ④ 解決のための行動～ 何ができるの	中学生～大人	解決のための アクション	15-16
用語解説		用語解説	17
解説①		女の子と教育	18-19
解説②		女の子と児童労働	20-21
解説③		女の子と早すぎる結婚	22-23
解説④		ジェンダー平等	24-25
解説⑤		解決のためのアクション	26-27
		参考資料	26-27

「男らしさって」「女らしさって」

対象：小学校低学年～大人

時間：30分～45分

ねらい：ジェンダーの固定観念を認識し、ジェンダー規範がどこから生じるかを考える

準備：●黒板/ホワイトボード/模造紙 ●チョーク/マーカーペン

参考：●用語解説 (P17)

おすすめ方

ステップ 1

①以下のような質問を投げかけて議論のきっかけとする

- ・家庭、学校、地域や職場などで「男の子/男性」と「女の子/女性」が違う扱いを受けたことがありますか。
- ・「女の子/女性(男の子/男性)」だから何かをしなければならない、またはしてはいけないと言われたことがありますか。
- ・「女の子/女性」や「男の子/男性」への期待はどんなものだと思いますか。
- ・あなたはその期待にそわないことをしたことがありますか。その場合、どんな反応がありましたか。あなたはその時どんな気持ちでしたか。

ステップ 2

- ① 黒板/ホワイトボードまたは模造紙を2つの枠に分け、枠の片方に「男の子/男性から思いつく言葉」、もう片方に「女の子/女性から思いつく言葉」と書く。
- ② 学習者に「男の子/男性から思いつく言葉」と「女の子/女性から思いつく言葉」を、各枠にあげてもらい(または学習者に質問して、進行役が記入する)、全体で共有する。
- ③ 進行役は枠に書かれたものを反対にし、それが適応するかどうか、またその理由を問う。
- ④ 「男の子/男性」と「女の子/女性」で、どうして異なる言葉を書いたのかを話し合う。

ステップ 3

- ① 「ジェンダー」について説明する。
- ② 以下の質問を投げかけて議論をする。

- ・どのようにして、ジェンダーの規範、つまり「男の子/女の子は〇〇すべき」という考えを人々は習得すると思いますか。
- ・ジェンダーの規範が強くなることをどう思いますか。

シータちゃんの日

対象：小学校中学年～大人

時間：45分

ねらい：ステップ1では経済的格差による不平等や不公正、ステップ2ではジェンダーの格差による不平等や不公正を明らかにする。全体を通して、途上国の女の子は「貧困」に加え、「ジェンダーの不平等」から2重の困難を強いられていることを知る

準備：● **ワークシート II-①** **ワークシート II-②** **ワークシート II-③** (P6、P7、P8) をグループ数分
● **物語-①** (P9) を人数分
● マジックペン (ピンク、黄、青、緑) をグループ数分

参考：● **解説-①～⑤** (P18～P27)
● **用語解説** (P17)
● **物語-②** **物語-③** (P10、P14)

おすすめ方

ステップ 1

① 2～3人のグループになる。

② **ワークシート II-②** 「シータちゃんの日」を配布する。

③ グループで、以下に簡潔に色分けしてシートに記入する。

食事、睡眠、風呂→ピンク、勉強→青、家の仕事(きょうだいの世話、水くみなど)→黄、自由時間、趣味の時間→緑

④ **ワークシート II-①** 「あいちゃんの日」を配布して比べ、以下について話し合う。

- ・あいちゃんの日にあって、シータちゃんにないものは何ですか。
- ・シータちゃんの日にあって、あいちゃんにないものは何ですか。
- ・気づいたこと、考えたこと、疑問に思ったことはありますか。
- ・どうしてこういう違いがあると思いますか？

*これら女の子の一日は日本と、ある国の小さな村にすむ典型的な12才の女の子の一日について書かれているものであることを伝える。

*一日の過ごし方は人によるので、必ずしもこの一日がその国を代表するものではないことを伝える。

*学習者の年齢が12才に近い場合には、同様のシートに「わたし・ぼくの日」*を記入してから、「シータちゃんの日」を配布し、色分けした後、比較検討し、④の項目について話し合ってもよい。
(*シートは www.plan-international.jp/ 教育関係者の方へからダウンロードできます)



ステップ 2

- ① **ワークシート II-③** 「シータちゃんの弟・アルン君(9才)の一日」を配り、ステップ1と同様に、色分けするように伝える。
- ② 「アルン君の一日」と「シータちゃんの日」を比べ、以下について話し合う。

・どのような違いがありましたか？

例えば

- a) シータちゃんの家では弟だけが学校に行けることについてどう思いますか。
- b) シータちゃんは家事手伝いで一日を過ごす一方、弟には遊ぶ時間があることについてどう思いますか。
- c) シータちゃんは、弟が食事をすませた後で食事をしているということについてどう思いますか。

・気づいたこと、考えたことや疑問に思ったことはありますか。

・どうしてこういう違いがあると思いますか。

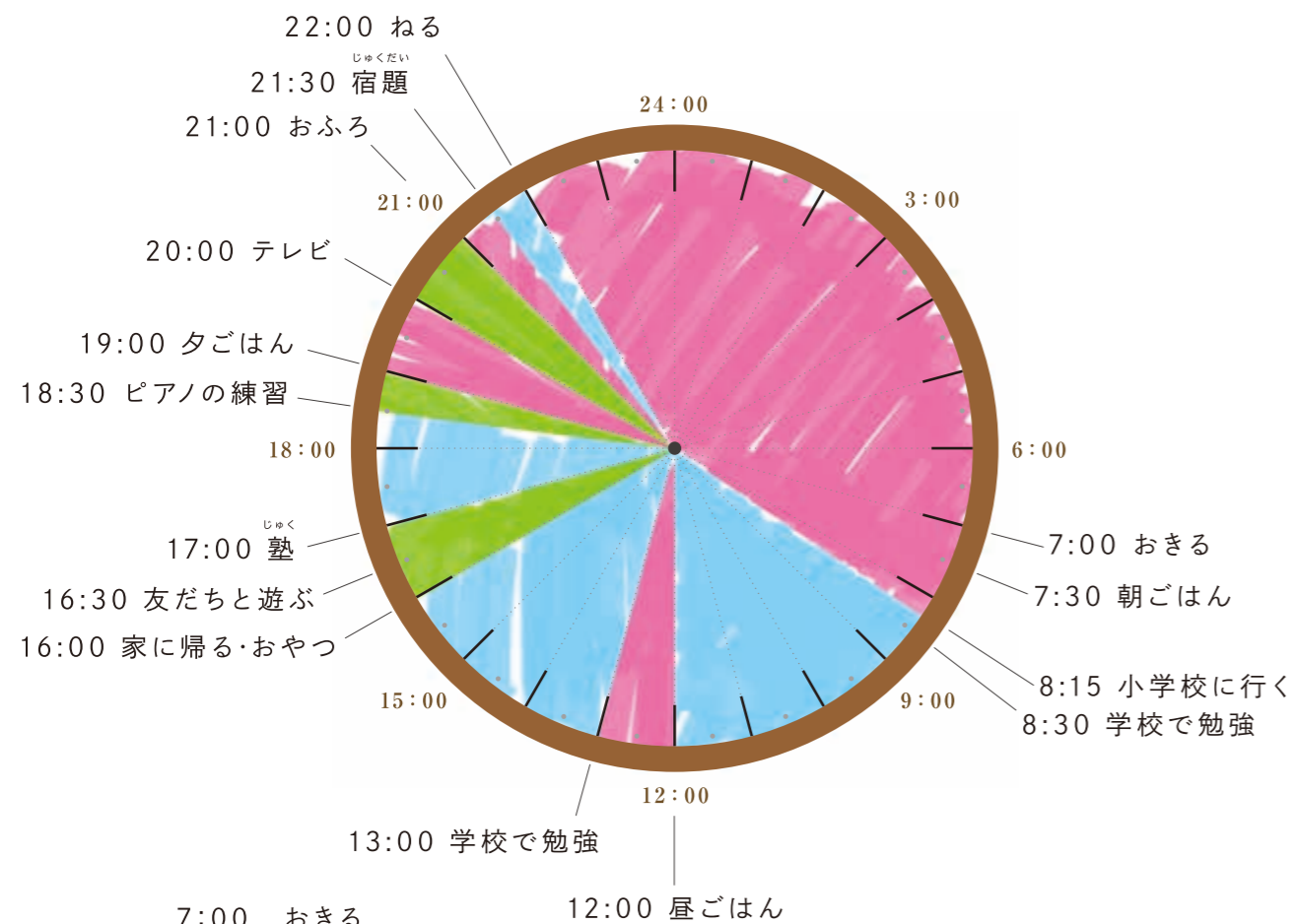
- ③ **物語-①** 「シータちゃんの物語」を各自読んで、シータちゃんが学校に行くことができない理由に線を引く。
- ④ グループ内でどんな理由があったか、思ったことや感じたことを話し合う。
- ⑤ グループ毎に④の内容を全体に発表し、共有する。
- ⑥ 参考資料をもとに、適宜解説をする。

*シータちゃんだけが特別なのではなく、世界には多くの女の子が貧困やジェンダーの不平等から厳しい状況にあること

*その解決には個人の努力や意識変化だけでは解決できないことも多いこと

*シータちゃんも大きなパワーや可能性をもっていること

あいちゃん(12才)の一日

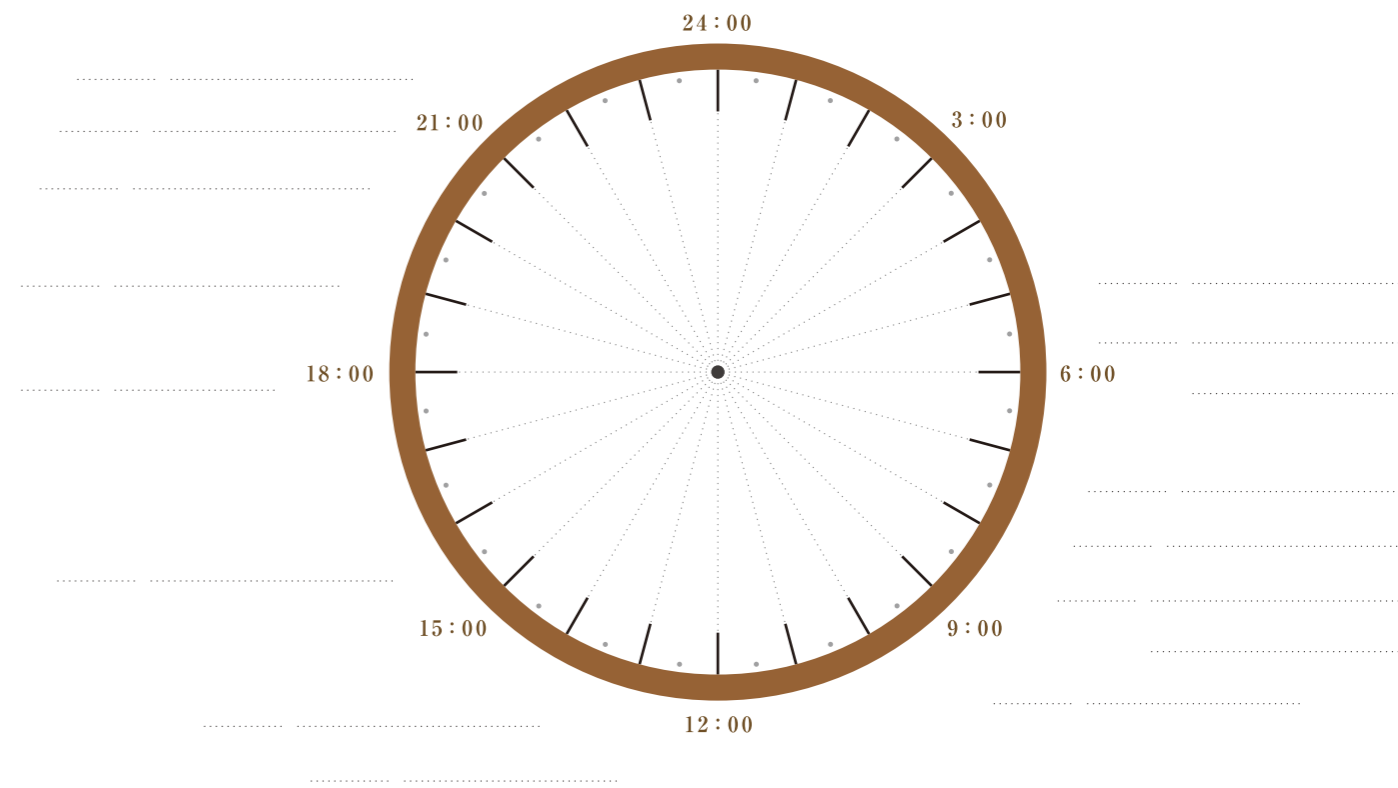


- 7:00 おきる
- 7:30 朝ごはん
- 8:15 小学校に行く
- 8:30 学校で勉強
- 12:00 昼ごはん
- 13:00 学校で勉強
- 16:00 家に帰る・おやつ
- 16:30 友だちと遊ぶ
- 17:00 塾
- 18:30 ピアノの練習
- 19:00 夕ごはん
- 20:00 テレビ
- 21:00 お風呂
- 21:30 宿題
- 22:00 ねる

- 食事・睡眠・風呂
- 勉強
- お手伝い
- 自由時間・趣味

シータちゃん(12才)の一日

スケジュールを見て色をぬってみよう

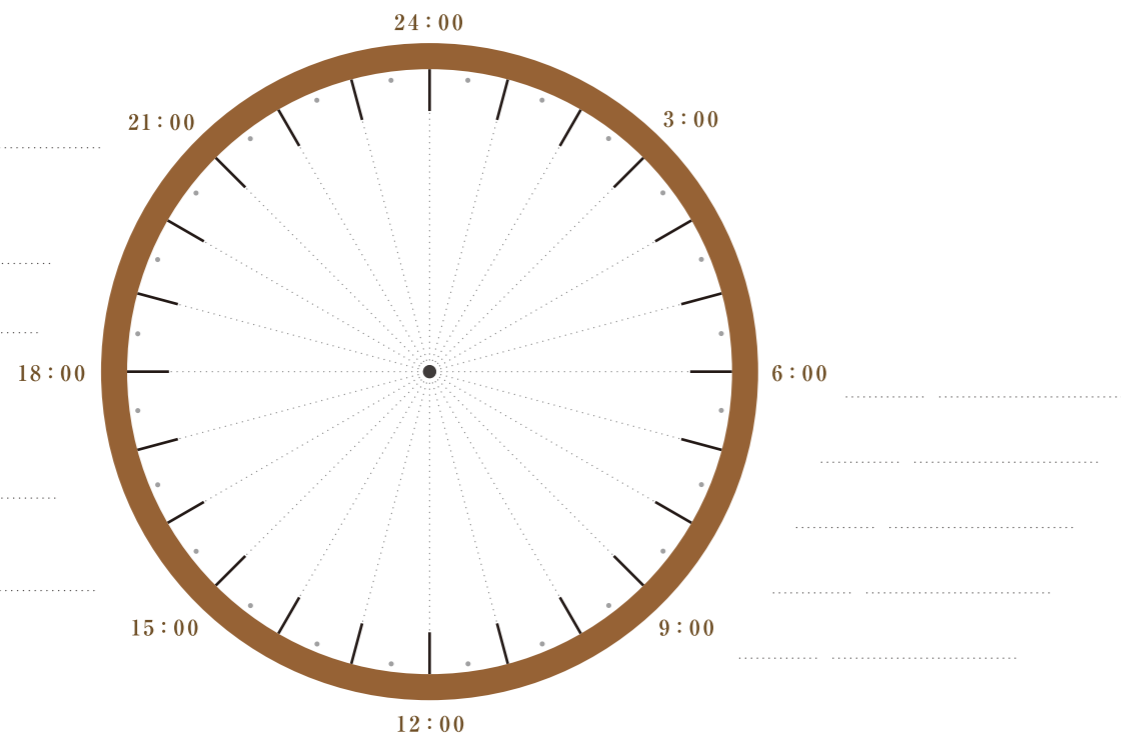


- 5:00 おきる・水あび
- 5:30 そうじ・水くみ・やぎの世話
- 7:00 朝ごはんの準備
- 7:30 朝ごはん
- 8:00 朝ごはんの片付け・きょうだいの世話
- 9:00 農作業の手伝い
- 13:00 おやつ・休けい
- 14:00 きょうだいの世話
- 16:00 まき集め・水くみ
- 18:00 夕ごはんの準備
- 19:00 夕ごはん
- 20:00 夕ごはんの片付け
- 20:30 家族だんらん
- 21:00 ねる

- 食事・睡眠・風呂
- 勉強
- お手伝い
- 自由時間・趣味

シータちゃんの弟 アルンくん(9才)の一日

スケジュールを見て色をぬってみよう



- 6:00 おきる・水あび
- 6:30 やぎの世話
- 7:15 朝ごはん
- 8:00 小学校に行く
- 9:00 学校で勉強
- 12:00 昼ごはん
- 13:00 学校で勉強
- 14:00 友だちと遊ぶ
- 16:00 宿題・勉強
- 17:00 きょうだいの世話
- 18:45 夕ごはん
- 19:30 家族と団らん
- 20:30 ねる

しよくじ すいみん ふろ
ピンク **食事・睡眠・風呂**

べんきょう
青 **勉強**

お手伝い
黄

じゆうじかん しゅみ
緑 **自由時間・趣味**

シータちゃんものがたりの物語

ある国の小さな村にシータちゃん(12才)は、お父さん、お母さん、3才年下の弟アルン君(9才)、妹(5才)、弟(2才)の6人で、ささえあって暮らしています。

シータちゃんは家のお手伝いをよくします。朝早くから、そうじ、水くみ、やぎの世話、家族の朝ごはんの仕度をします。ごはんはまず、お父さんと弟たちが食べ、次にお母さん、シータちゃんと妹が食べます。この地域では女の子より男の子の方が大事にされるからです。

5才から水くみはシータちゃんの仕事です。毎日、朝と夕方、30分かけて井戸まで水くみにいきます。シータちゃんは、家の仕事やきょうだいの世話のために、小学校3年で学校をやめてしまいました。本当はもう一度学校に行きたいと思いますが、まずしく、家のお手伝いは女の子である自分がしなくてはならないことをよく知っているので、あきらめています。弟が友だちと元気に遊ぶことも、うれしいけれど、自分も遊んだり、自由にすごしたりする時間が欲しいと思うこともあります。

お父さんは、家の近くに中学校がなく、小学校までしかいくことができなかったのも、良い給料をもらえる仕事につけませんでした。また、お母さんは学校に行ったことがないので、女の子が学校に行くことの大切さがわかりません。友だちのお母さんも、読み書きができない人は多くいます。

お母さんがお父さんと結婚したのは13才。お父さんはシータちゃんの結婚相手を探しはじめました。「勉強したり、遊んだりする時間はこの先ないのかな?」「お母さんのようにまずしい暮らしの中で、畑仕事と家族の世話におわれて過ごすのが、女の子にとってはあたり前なのかな?」とシータちゃんは思っています。



水くみ



まき運び



食事の準備(上)、やぎの世話(下)



のうさぎよう 農作業のお手伝い

ものがたり

ウルミラさんの物語

ウルミラさんはネパールの22才。以前は「カムラリ」*と呼ばれる家事使用人として働かされていました。現在は「女の子の権利」の活動家として活躍しています。

ウルミラさんは土地なし農家に生まれました。家はとても貧しく、両親は借金をして暮らしていました。6才の時に、両親は借金の肩代わりとしてウルミラさんある男に引渡しました。彼女は、首都カトマンズの裕福な家の「カムラリ」として、住み込みで毎日朝から晩まで、働きました。しかし、給料は一円ももらえず、殴られるなどの暴力もしばしば受けました。ウルミラさんは、そんな生活を12年間も続けなければなりません。

2008年、ウルミラさんが17才の時、国際NGOや地元NGOの助けにより、ようやく彼女は「カムラリ」から解放されました。そして夢がかない、彼女は学校に通い始めました。

ウルミラさんは女の子の権利のために活動する団体の代表となり、他メンバーとともに、大統領などに何度も面会に行き、元カムラリの女の子が自立するための支援を求めています。また、村芝居を通して、女の子やその親たちに「カムラリ」の問題について訴え続けています。

ウルミラさんは今では、数千人の元カムラリの女の子たちのお手本、そして保護施設で生活する100人の元カムラリの女の子たちのお姉さん役にもなっています。

ウルミラさんのおばあさんも、お母さんも、お姉さんも、おばさんも家族のすべての女性たちが「カムラリ」でした。しかしウルミラさんはそれを断ち切りました。将来の夢は法律家になって、女の子が守られる社会を作ること。そのために、勉強や活動に励んでいます。

*カムラリとは… 貧しい家庭の女の子が親の借金の肩代わりとして、他人の家に住み込み、家事労働させられる制度。違法にもかかわらず、今でも根強く残っている地域がある。

*ウルミラさんの物語は動画「カムラリたちの新たな人生」でもご覧いただけます。 www.youtube.com/user/planjapantv



高校に通うウルミラさん



元カムラリの女の子たちの自立のために活動するウルミラさん



「女の子の権利」について訴えるウルミラさん

成長の根っこ

対象：中学生～大人

時間：30分～50分

ねらい：子どもの頃に置かれた状況が、将来にも大きく影響することを知る

準備：● **ワークシート III-①** **ワークシート III-②** (P12、P13) をグループ数分
● 筆記用具

参考：● **解説 ①～⑤** (P18～P27)
● **物語 ①** **物語 ②** **物語 ③** (P9、P10、P14)

おすすめ方

ステップ 1

- ①事前にシータちゃん、ウルミラさん、ファトマタさんの物語を読んでおく。
- ②4～5人のグループになる。
- ③木々と人間の成長について以下を伝える。

木が育ち、花を咲かせ、実をつけることは、人間が成長することにも通じます。土によい栄養があれば、根っこからそれを吸収して「健康な木」が育ちます。一方で、十分な太陽の光、水、栄養がなく、有害な物質が含まれば、根、幹、枝、葉のすべてが健康に育ちません。人間も十分な栄養、適切な環境などの様々な資源とそれを吸収する根っこがあれば、健やかに成長することができます。

- ④学習者に **ワークシート III-①** 「不健康な木」のシートを配る。
- ⑤根の部分には、女の子が小・中学校を中途退学してしまう理由を考えて書くように伝える。
例えば、「家族が貧しくて教科書が買えない」「家事労働が多くて学校に行く時間がない」「親が学校に通わなくてよいと言う」など。
- ⑥枝の部分には、その結果について書くように伝える。
例えば、「読み書き計算ができない」「基本的な人権を学ぶことができず、早すぎる結婚をする」「よい仕事につけない」など。
- ⑦全体に共有する。
- ⑧ **ワークシート III-②** 「健康な木」のシートに同様のことをする。
例えば、根の部分には「教育費がまかなえる一家の収入がある」「親の理解がある」など。枝の部分には「仕事につくことができる」「権利を知り、自分を守ることができる」「人生の選択ができるようになる」「自分の子どもを健康に育てることができる」など。

ステップ 2

- ⑨ **ワークシート III-①** 「不健康の木」を使って、以下を議論する。

・男の子だったらどうですか。
・あなたの学校でも同様なことが生じていますか、それはどうしてですか。
・あなたは学校で勉強することで、どんな良い結果が得られていますか。それは将来にどのように影響しますか。

不健康な木



健康な木



ものがたり

ファトマタさんの物語

西アフリカのシエラレオネに住むファトマタさんは17才。ファトマタさんのお母さんは14才の頃、年取った男性と結婚をさせられました。お父さんはまだファトマタさんが幼い頃に亡くなったため、お母さんはシングルマザーとして、ファトマタさんや他の子どもたちを一人で育てました。

お母さんは、自分の経験から、娘たちには何としても教育を受けさせたいと考え、ファトマタさんを学校に通わせました。ファトマタさんは現在、「早すぎる結婚」という地域に根づく悪習を廃止させるために積極的に活動していますが、それはお母さんの意思をついだものです。

「私はシエラレオネの女の子が、いつ誰と結婚するかを自分自身で決められる権利を勝ち取るために活動を続けます」。ファトマタさんはニューヨークの国連本部で開催された、第56回国連女性の地位委員会で、政策決定者、大臣、ジャーナリスト、政府高官や活動家を前に演説をしました。

ファトマタさんは農村地域で、村人たちに「早すぎる結婚」の問題をわかりやすく伝えるために、路上劇も行っています。将来会計士になるために勉強しながら、ラジオでのトーク、物語や歌、ポスターやチラシを通して、「早すぎる結婚」の問題について人々に伝え、その廃止を訴えています。



国連「女性の地位委員会」で演説をするファトマタさん（中央・右）

解決のための行動～何ができるの？

対象：中学生～大人

時間：50分

ねらい：すべての子どもに平等な世界をつくるひとつの方法として、アドボカシーがあることを知る。ジェンダー平等のために、自分にできること、やりたいことを考える

準備：● **物語-1** **物語-2** **物語-3** (P9、P10、P14)をグループ数分
● 模造紙グループに2枚ずつ
● **解説-5** (P26、P27)をグループ数分
● **ワークシート-II-1** (P6)を人数分

すすめ方

① 4～5人のグループに分ける。

② **物語-1**「シータちゃんの物語」を読んで、状況をよくするためには、どんな点を改善する必要があるのか、自由に考えてもらい、模造紙に書き出し、全体に共有する。

例えば、シータちゃんの家族の収入が増えるようにする。家族や周囲が教育の重要性を理解するなど。ウルミラさん、ファトマタさんの物語を読んで、どんなことから彼女たちがパワーを得られたかを考えてもよい。例えば、職業訓練を受ける機会、同じ問題意識をもつ家族や仲間の励ましなど。

*その際に個人の努力や意識変化だけでは解決できないことも多いことを確認する。

③ 世界には小・中学校を中途退学する女の子、家事労働や児童労働に負われる女の子、早すぎる結婚を強いられる女の子などがたくさんいる。そうした女の子がいない世界を創るために、どのような取り組みが必要だと思うか考えて、模造紙に書き出す。また実際にどのような取り組みがなされているか、知っていることや調べたことを話し合って全体に共有する。

④ **解説-5**「問題解決のためのアクション」を配布し、ジェンダー平等のためのひとつの取り組みとして、アドボカシー活動について説明する。世界や日本の子どものアドボカシーの事例を紹介する。

例えば、世界では子どもたちが

- 児童労働の廃止を訴えるために、路上劇の上演やラジオでメッセージを発信（インド）
- 世界中の子どもが教育を受けられるために、ユネスコ本部に提言（フランス）
- 世界の問題について調べて文化祭で発表し、多くの人々に知らせる（日本）
- 世界中の子どもが教育を受けられるように訴えるキャンペーンの署名活動に参加し、集めた署名を外務大臣に手渡す（日本）

⑤ 一人ひとりの声が政策を動かす力となることを伝え、**ワークシート-II-1**「すべての子どもに平等な世界をつくるために」の用紙に、ジェンダー平等のために、自分にできる こと、やりたいことを記入する。

⑥ 全体に共有する。

すべての子どもに 平等な世界を つくるために

.....

.....

.....

.....

用語解説

◆ジェンダー (Gender)

ジェンダーの概念は女の子や男の子、女性や男性に帰属する役割や関係、価値に関する規範、期待、信条を指します。これらの規範は社会的に構築されたものであり、不変なものではなく、また生物学的に決定されるものでもありません。また時代の流れとともに変わっていくものです。これらの規範とは、人々が家族や友人、学校、コミュニティ、メディア、政府、宗教組織などから学んでいくものです。

◆ジェンダー平等 (Gender equality)

「ジェンダー平等」とは、女性も男性も、女の子も男の子も、またジェンダー指向に関わらず、すべての人々が社会において同じ地位を享受するというものです。また、あらゆる権利を同様に持ち、地域社会において同様の尊敬を受け、人生を左右する決断について同様の決定権を持ち、これらの選択の結果を形にするために必要な力を同様に有するというものです。

◆ジェンダーに基づく固定観念 (Gender stereotypes)

ジェンダーに基づく固定観念とは、社会的に構築され、正確かつ不変であると見られている女性と男性の異なる特性、役割、関係についての、思い込みのことです。ジェンダーに基づく固定観念は教育や子育て、メディアの影響といったプロセスを通じて再生産され、より強化されていきます。ジェンダーに基づく固定観念は、人々の態度、行動、判断を形成します。それは人々を一定の行動パターンにはめこみ、本当の潜在能力を十分に引き出したり、持てる権利を行使したりすることができないようにしてしまいます。ジェンダーに基づく固定観念は、その固定観念に当てはまらない者を社会的に排除することにもつながります。

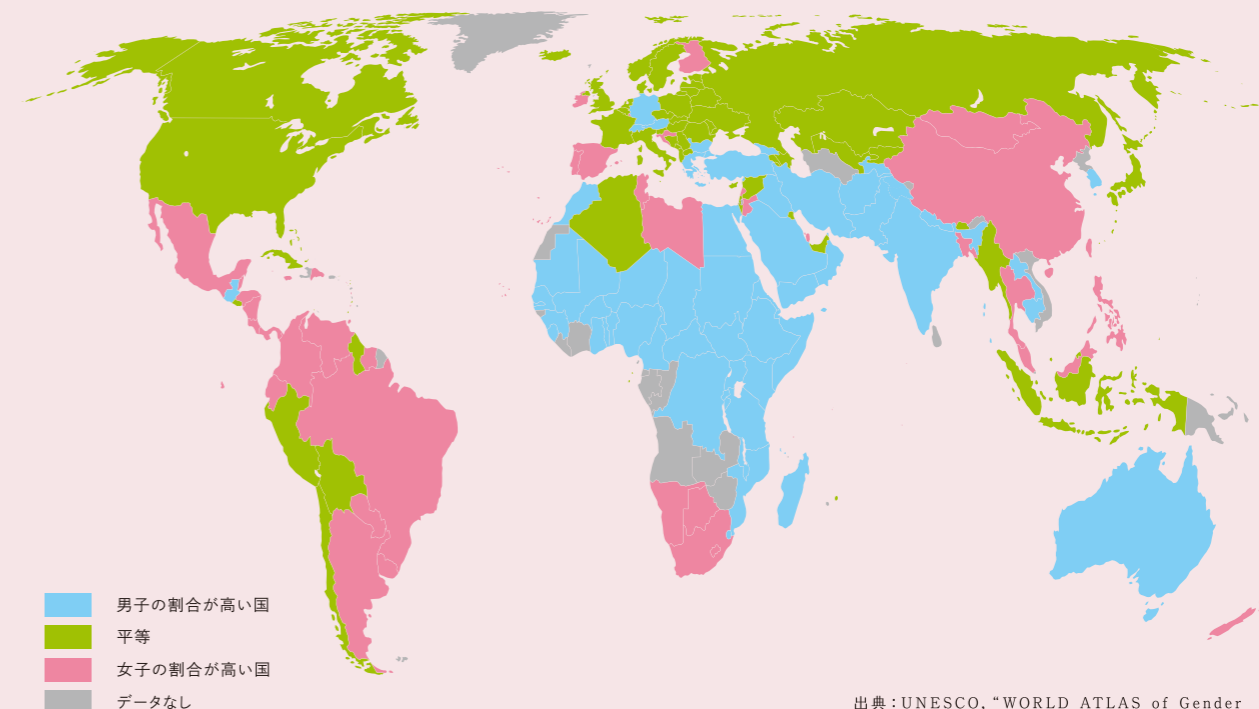
◆エンパワーメント (Empowerment)

パワーとは、人が自分の人生と環境を形作るための能力のことです。パワーの欠如こそ、女の子と女性が自らの権利を行使したり貧困の連鎖から逃れたりすることを妨げる大きな障壁のひとつです。しかしこれは、エンパワーメント戦略で克服することができます。ジェンダーに基づくエンパワーメントは、女の子の「資産」(社会的、経済的、政治的、個人的)を構築し、女の子が自分の将来に関する選択を行えるようなパワーを強化し、女の子の自尊心と、自分の人生は自分で決めるという信念を育むものです。





図1：中等教育における男女平等



解説 ①

女の子と教育

◆学校を中途退学しなくてはならない女の子

途上国の人々・政府や国際社会の努力で、小学校の就学率は男女ともに大きく改善しました。しかし、一旦は入学できたとしても、貧困、家事労働や家族・地域の理解不足などから、多くの子どもたちが小学校や中学校を中途退学しています。

なかでも女の子はより厳しい状況にあります(図1)。6,200万人の女の子が小・中学校を修了できずにおり、中学校におけるその割合は8人に1人です*1。

中等教育は、女の子が将来よりよい仕事や収入を得て、自由な選択のできる人生を歩むために大切な時期です。しかし、現状では多くの女の子が初等・中等教育を修了することができていません。

◆女の子が学校に行けない10の理由

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 貧困 | 6. 早すぎる結婚・妊娠 |
| 2. 近くに学校がない | 7. 劣悪な学習環境 |
| 3. 学校や通学路が安全ではない | 8. 学校に男女別のトイレや安全な飲料水がない |
| 4. 水くみなどの家事労働 | 9. 女子教員の不足 |
| 5. 社会や家族の女の子の教育への理解不足 | 10. 児童労働 |

◆もし女の子が教育を受けられたら…

女の子への教育効果は、ひとりの女の子に留まらず、家族、地域、国や世界に広がる可能性があります。また母親が教育を受けていると、次世代にも良い影響を与えるというデータもあります。

世界では………女の子が初等教育を5年間受けると、将来生む子どもが5才まで生き延びる確率が40%以上も上がる*2。

ケニアでは………女性が男性と同じレベルの教育を受け、農作業にも決定権を持った場合、収穫高が22%アップ*3。

ジンバブエでは………学校に通う15~18才の女の子はHIVに感染する率が5分の1*4。

*1 UNESCO, EFA Global Monitoring Report, 2015
 *2 THE WORLD BANK, "Girls' Education in the 21st Century : Gender Equality, Empowerment and Economic Growth", 2009
 *3 UNFPA State of World Population, 2005
 *4 Global Coalition on Woman and AIDS

女の子と児童労働

◆6,800万人以上の女の子が児童労働

児童労働とは、義務教育を妨げる労働や、法律で禁止されている18才未満の危険・有害な労働を指します。世界の子ども（5～17才）の11%、1億6,800万人（うち6,800万人が女の子）が児童労働をしていると見積もられています*1。

◆“隠された労働”に従事される女の子

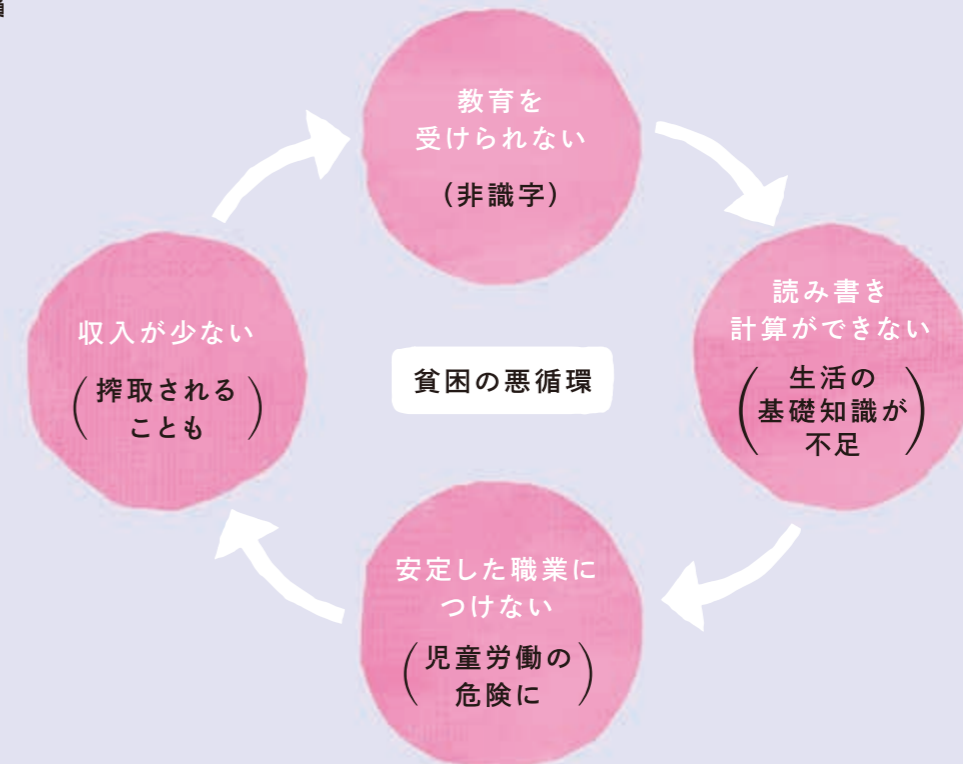
女の子の労働の多くが、親の借金を返すための債務労働、性産業、家事使用人などの非公式部門での労働です。また非合法で、時には無報酬であるために、公式データに反映されづらい“隠された労働”です。特に家事使用人の女の子は、ほとんど休みもなく、長時間労働を強いられ、孤立感の中で厳しい生活しています。ひと目につきにくいいため、言葉による暴力や身体的・性的な虐待を受けることも多くあります。



◆なぜ女の子が児童労働に？

貧困、教育の欠如、親や地域社会の低い意識、不完全な法など、様々な原因が複雑に絡み合っています。そして、女の子の児童労働は、女性の地域社会や家庭での低い地位を反映しています。家族にとって女の子は“経済的負担”と考えられている地域もあり、貧困家庭では親は、女の子の教育に投資しながら、最初に女の子を働きに出すという傾向にあります。このように、女の子は多くのハンディを負い、選択肢や機会を十分得られない状態で成人となってしまいます。そのため、自分の子どもへよい影響を与えられず、貧困の悪循環を次世代に残すことになります。（図1）

図1：貧



◆教育は児童労働、ひいては貧困の悪循環を断ちきる「鍵」

女の子が教育を受け、適正な職業やスキルを身につければ、社会や次世代に大きな影響を及ぼす可能性があります。

- 農業分野では、作物の生産性が向上し、子どもの栄養状態が改善する
- 家庭の収入が増え、一人当たりの国民所得や貯蓄高が増加し、経済成長が加速する
- 早すぎる結婚・妊娠を減少させ、生まれた子どもが教育を受ける機会が増す

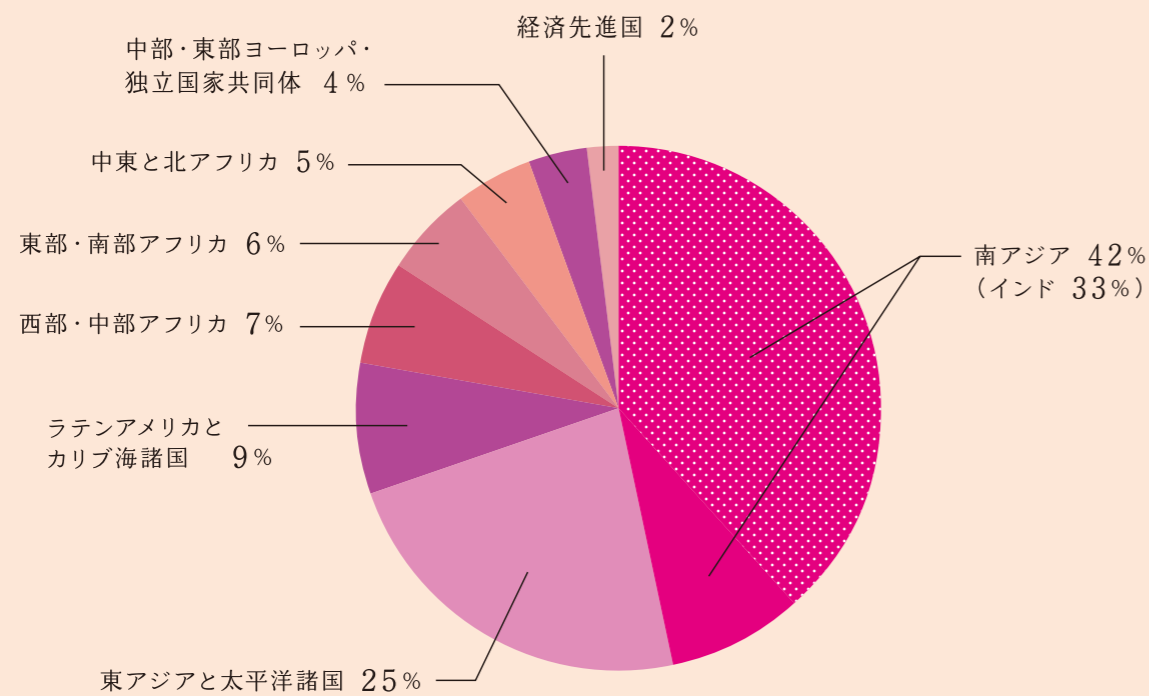
*1 ILO, 2013

女の子と早すぎる結婚

◆早すぎる結婚をさせられる女の子

早すぎる結婚とは、子どもの年齢（18才未満）で結婚することを意味します。多くの場合、女の子には十分な情報を与えられず、その結婚に対して自由に意思を伝えられません。国際人権基準でも規制され、女性や子どもに対する暴力の形態の一つと認識されています。世界では7億人の女性が18才未満で、そのうち2億5000万は15才未満で結婚をされています*1。中には10才前後の結婚もあります。

図1：早すぎる結婚の分布



出典：UNICEF, ENDING CHILD MARRIAGE Progress and prospects, 2014

◆なぜ早すぎる結婚をさせられるの？

理由は人によって様々ですが、以下の要因のいくつかが複雑に絡み合っています。

1. ジェンダーの不平等・・・女の子の社会や家庭での地位が低い
2. 貧困・・・生活費、教育費、「結婚持参金」などの家計の負担を減らす
3. 慣習や宗教・・・古くからの伝統や宗教に関連する考え
4. 法律の機能不全・・・規制する法律があっても、家族や本人が知らない。
女の子を保護する法律がない国々も。
5. 紛争や災害・・・混乱から女の子を守るため、また家族の経済状況が悪化するため。

◆早すぎる結婚によって女の子たちは・・・

早すぎる結婚をさせられた女の子の多くは学校に通うことができず、彼女らがもつ「権利」すら、知ることがありません。孤立した嫁ぎ先で、夫や家族から言われるがままに、重い家事労働を背負わされることもあります。また、自分の身を守るすべを学べず、身体的、心理的、性的虐待の対象になりがちです。毎年、1400万人の思春期の女の子が出産していると推計されていますが、妊娠出産に関連した死亡は7万人に上り、世界中の15才から19才の女の子の死因のトップとなっています*2。

◆「いつ誰と結婚するか」女の子自身が決められるようにするために

女の子には、いつ誰と結婚するか自分で決める権利があります。早すぎる結婚を廃止するためには、女の子への教育が鍵となります。知識、スキル、自信をつけることで、女の子たちは自分の人生を選択するために声をあげることができるようになります。

*1 UNICEF 2014 *2 UNFPA, 2013



ジェンダー平等

◆世界で完全にジェンダー平等を達成した国はありません

ジェンダー平等の国際的な指標の代表的なものとして、世界経済フォーラムによる「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(GGI)」や国連開発計画(UNDP)による「ジェンダー不平等指数(GII)」があります。「保健」「教育」「政治」「経済」の指標からなるグローバル・ジェンダー・ギャップ指数において、1位は全体スコア0.881のアイスランドです(0が完全不平等、1が完全平等を意味)*1。また、「保健」「エンパワーメント」「労働市場」の3つの側面からなるジェンダー不平等指数において、1位は0.067のノルウェー(1が完全不平等、0が完全平等を意味)*2。どちらも完全平等には届いていません。

◆日本のグローバル・ジェンダー・ギャップ指数は145カ国中101位

表1が示すように、日本のグローバル・ジェンダー・ギャップ指数は145カ国中101位。特に政治参加のギャップからこのような低い数値になっています。議員に占める女性の割合は、衆議院が9.5%、参議院が15.7%*3とOECD加盟国では最低ラインです。ジェンダー不平等指数(GII)においては155カ国中26位*4。保健分野などの日本が優れている分野が含まれている結果と考えられますが、日本においても、意思決定に関わる立場にある女性の割合が著しく低いという現状において、ジェンダー平等に向けて取り組む課題は多くあると言えます。

表1: グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(GGI)

	ランク	全体スコア	経済	教育	保健	政治
アイスランド	1位	0.881	0.836	1.000	0.970	0.719
フィリピン	7位	0.790	0.799	1.000	0.980	0.382
米国	28位	0.740	0.826	0.999	0.975	0.162
ベトナム	83位	0.687	0.731	0.941	0.950	0.124
日本	101位	0.670	0.611	0.988	0.979	0.103
ネパール	110位	0.658	0.575	0.917	0.972	0.169
ベナン	129位	0.625	0.764	0.700	0.967	0.067
イエメン	145位	0.484	0.225	0.720	0.967	0.026

出典: 世界経済フォーラム The Global Gender Gap Report 2015



◆男女平等の法律を作れば、格差は解消される?

男性と女性に対して一見中立的な法律や政策でも、結果的には男女に異なる影響を及ぼすことが往々にしてあります。例えば、日本には男女雇用機会均等法があり、雇用での男女差別は禁じられています。しかし、企業の課長相当職以上に占める女性の割合はわずか7.5%*5。女性が働き続け、昇進するのがいかに厳しいかがわかります。このギャップを是正するには、家事・育児を男女間でより公平に分担できるような環境づくりや意識改革、家事・育児をサポートするような公共サービスや民間サービスの拡充などが必要です。

◆ジェンダー平等の社会をつくるために

ジェンダーは女性だけの問題ではありません。例えば日本では「男は弱音をはいたり泣いたりせず、一家の大黒柱として家族を経済的に養ってこそ一人前」などのジェンダー規範があり、男性にとっても生きづらい社会になっています。すべての人々が自分の持って生まれた可能性を開花させ、対等な立場で助け合い、能力を活かしていけるジェンダー平等社会をともに作り上げていく必要があります。

*1 *4 世界経済フォーラム The Global Gender Gap Report, 2015

*2 UNDP, Human Development Report, 2014

*3 *5 内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ 平成27年度調査結果」, 2015

問題解決のためのアクション

◆プログラムを実施してコミュニティを変える

NGO、国連、現地政府などが、「識字教育」「学校・トイレ建設」「女性教員トレーニング」「職業訓練」など様々なプロジェクトに取り組んでいます。現地の女の子や女性たちもニーズ調査、プロジェクト実施、評価などに加わるケースも増えています。



◆意識啓発をして人々の意識とふるまいに変化をもたらす

ジェンダーに関する差別、ステレオタイプ、不平等な力関係を変換させるためには、人々の意識啓発が欠かせません。現地では当事者である女の子・女性が啓発活動の重要な担い手として活躍することも。すべての子どもに平等な世界をつくるためには、日本においても、構造的な男女不平等の原因を知り、改善に向けて何ができるかをともに考えることが重要です。



◆政策に働きかけて社会の仕組みを変える (アドボカシー)

問題解決のためには、国内外の政策の改善が不可欠です。活動現場の経験や知見、そして当事者である女の子や女性の声を政策に届けるために、行政担当者や対話し、法律の策定・改善支援、教育政策やカリキュラムづくり支援、関係機関の連携をはかります。日本でも、「世界中の子どもに教育を」「ODAにおける教育支援の充実を」などを訴える署名やアクションが呼びかけられています。



アドボカシー活動

「募金をする」「ペットボトルキャップを集めて支援団体に送る」「省エネに励む」など、貧困や気候変動、ジェンダーの不平等などの諸問題解決に向けた個人の取り組みは増えています。一方、それらの問題解決のためには、国内外の政策の改善が不可欠です。この政策を変えるための活動をアドボカシー活動といいます。政策を変えるためには、その問題が起こっている根本的な原因を理解し、それを解決するための提案を、政策を決定する責任のある政治家や政府の担当者などに届けることが重要です。そして、政治家や政府の担当者にその問題を重要と思ってもらえるよう、問題に気づいた人たちが、できるだけ多く声をあげていくことが、とても大切です。この「声をあげる」という行為は、特別な知識や資格はなく、私たち全員が参加できる行動でもあります。



世界の女の子の教育の拡充とエンパワーメントの推進を訴えるために実施したRaise Your Handアクション。世界70カ国以上239万5266名の意思が外務省やユネスコ本部に届けられました。



国際会議や国連の場でもユースの声が重要視されています。ユースが持つエネルギーと新しい視点は社会に確実に変化をもたらします。

参考資料

プランのウェブサイト www.plan-international.jp
 You Tubeチャンネル www.youtube.com/user/planjapantv からご覧頂けます。

◆映像

「女の子が生き抜くための『学び』」、「カムラリたちの新たな人生(ネパール)」、「13歳の花嫁(ニジェール)」など各種短編映像をご紹介します。



◆「ジェンダー平等に関するプランの方針」

プランの目標は、すべての子どもたちが、本来もてる力を発揮できる社会を築くこと。その達成には、「ジェンダー平等」が欠かせません。活動国でのプログラムはもちろん、各国事務所の運営や発信するメッセージなどすべてに「ジェンダー平等」の視点を盛り込むというプランの方針を説明しています。



◆世界ガールズ白書

プランでは2007年から毎年、世界の女の子の現状を調査、報告した「世界ガールズ白書」を発行しています。女の子に影響を及ぼしているテーマを取り上げ、女の子たちが直面する問題やその解決に向けたプランの提言や取り組みを紹介しています。



◆ユース冊子「世界を変える若者のチカラ～国際NGOプラン・インターナショナルの活動現場から～」

マララ・ユスフザイさんのストーリー、途上国の女の子の現状・可能性についてのデータや解説から、世界を変える若者の力を考える教材です。

